

4

この自然が永遠に続くために、
私たちにできること

環境の保全

私たちは、地球環境問題の重要性を認識し、
環境保全に向けて自主的かつ積極的に行動します。

COMMITMENT

お客様に有用な商品やサービスをご提供するのみならず、環境負荷をより小さくする、つまり「環境負荷の最小化と同時に経済的価値を最大化する」環境経営を行います。私たちの責任として、グローバル（全世界）で、製品ライフサイクル（素材選択から、製造、使用、廃棄まで）を通じて、環境負荷をより小さくし続けます。

APPROACH

「測定なくしてコントロールなし」を取り組みの基本姿勢とし、信頼性のあるデータの確保に努めるとともに、効果・影響の定量的な測定と分析に基づき、環境課題の着実な解決につなげます。

経済性も兼ね備えた環境施策とは、徹底的な「ロス削減」であると考え、資源・エネルギー・行動・時間など、あらゆる切り口で「ロス」を解明し、効率向上の糸口とします。



2006 TターゲットARGET

- 1.生産工程での地球温暖化防止（CO₂排出削減）
策の展開に際して、施策と効果についてデータ
分析を行い、最適施策を選びます。
- 2.製品では、有害物質規制であるRoHS指令への
対応のみならず、省エネルギー製品の開発、販
売を加速し、お客様を通じてCO₂排出削減とエ
ネルギー資源節約を進めます。
- 3.生産事業所では、廃棄物排出量と有害化学物質大
気放出量について、ゼロエミッション活動および
化学物質総合安全管理計画による削減を進めます。

この自然が永遠に続くために、私たちにできること



関係会社も管理範囲に入れた、グループワイドな環境経営が定常化した今、取り組み目標のキーワードは、「グローバル」「ライフサイクル」に加え、生産量増加を言い訳にしない「総量削減」です。

グローバル環境経営の推進

開発・製造・流通・販売・サービスの製品ライフサイクルの全段階における環境配慮を、迅速かつ効率的に推進するために、日本のグループ全39社で、環境マネジメントシステムのしくみ「ISO14001」を統合しました（対象人員は約20,600人、241事業所）。

また、コニカミノルタグループは、生産・販売の海外比重が高く、持株会社制も採用していることから、グローバル・グループワイドを重視した環境経営を行っています。日本での統合ISOは、グローバル環境経営の日本地域の要であるとともに、コニカミノルタグループ全体を包含する環境経営に不可欠です。日本以外でも、中国、米国、欧州の各地域で、統率のとれた環境経営を進めています。

CO₂排出量を削減し、地球温暖化防止に貢献

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素（CO₂）の排出削減は、世界的な環境命題です。これに対しコニカミノルタでは、「全事業活動と製品使用时由来のCO₂排出総量を2010年に2000年度比で20%削減する」という目標を立てています。

そのために情報機器製品では、消費電力低減に取

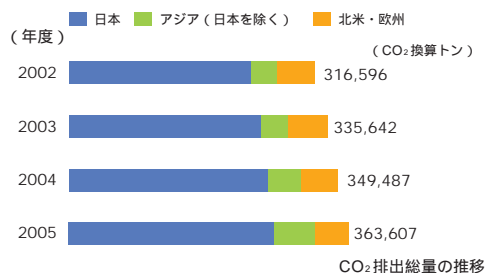
り取り組んでいます。例えば、複合機「bizhub 750/600」では、電磁力の力で熱を生み出すIH技術を画像を熱で定着させる定着ユニットに採用することで、大幅に消費エネルギーを低減させました。生産工程においては、「効率アップ」を合言葉に、エネルギー供給側では少ない燃料で大きなエネルギーを、使用側では少ないエネルギーで多くの生産量を追求しています。現在、何も施策を打たなければ排出量が増大するところ、様々な対策を講じることによって、これを抑制しています。

使用済み製品のリサイクル

資源を有効に活用するため、使用済み製品の回収とリサイクルを進めています。現在、欧州20カ国と日本および北米で展開している、プリンタの使用済みトナーカートリッジの無料返却リサイクル制度を、ポーランド、ハンガリー、チェコ、スロヴァキアのEU4カ国に拡大します。

複合機では、使用済み外装カバーのプラスチック素材をリサイクルして、新しい複合機の外装カバーの原料に使用しています。リサイクル拠点に専用の粉碎機を設置し、あわせて異物除去のシステムを強化することで、質の高いプラスチック素材の回収リサイクルを可能にしています。

2005 パフォーマンス Performance



全世界のコニカミノルタグループ生産拠点における、CO₂総排出量のグラフです。



ドイツの環境ラベル「ブルーエンジェルマーク」を多くの製品で取得しています。複合機分野では圧倒的な取得機種数を誇り、常に市場をリードしています。



経済性も追求する「ゼロエミッション活動」

コニカミノルタの事業所では、排出物の再資源化を進め、埋め立て廃棄物を究極まで減らす「ゼロエミッション活動」を進めています。再資源化量を排出物総量で割った「再資源化率」は、現在、全世界の総量ベースで95%を維持しています。

特に重要と考えているのは内部リサイクルです。これは、生産工程から出る端材(たち落としなどの製品にならなかった部分)や溶剤などを、同じ工場内で繰り返し利用することで、地球資源のロス削減、廃棄物削減とコスト削減を同時に図ることができます。

有害化学物質の管理と情報公開





環境保全と労働安全衛生の観点から、化学物質の総合管理を行っています。製品や生産現場で、有害な化学物質が不用意に使われないよう、「安全性確認システム」ですべての化学物質についてチェックを行っています。また、止むを得ず生産現場で使用している有害化学物質については、使用量と大気放出量の削減を計画的に行っており、2005年度は、大気総放出量を2000年度に対して約75%削減しました。また製品では、欧州RoHS指令対象製品について対応をすべて完了しました。

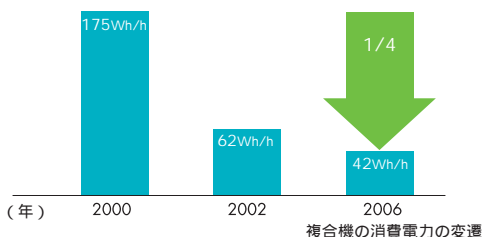
コニカミノルタでは、有害化学物質による汚染やリスクを発見し次第、迅速な調査と対応を行うとともに、地域の住民と行政に報告しています。2005年には、酸化トリウム含有のガラス片が倉庫内に保管されていることを発見しましたが、その後の調査で地域の方々や従業員に対して安全上問題のないレベルであることを確認し、管理体制を徹底しました。また、これを直ちに文部科学省と住民に報告するとともに、ホームページでもお知らせしました。

土壌・地下水に関しては、積極的な調査の結果、日本の9カ所で汚染が判明していますが、これに対して専門チームを編成しその管理のもとで、浄化と定期観測による監視を続けるなど対策を進めています。それぞれの状況については、ホームページなどで情報を公開しています。

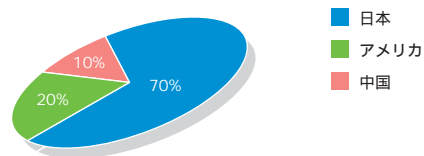
2005年度の詳しい環境取り組みは、コニカミノルタ環境ウェブサイトのウェブ版環境報告書に掲載しています。

<http://konicaminolta.jp/pr/eco>

-  氷蓄熱式空調システム「エコアイス」(日本)
-  コニカミノルタが保護支援している鳥「タンチョウ」
-  溶剤回収装置(日本)
-  工場付近の湿地帯に集まる鳥「ゲース」(米国)



複合機では、トップクラスのエネルギー消費効率を実現しています。2006年発売の「bizhub 420」のエネルギー消費は、6年前の製品「Sitios 7045」の約4分の1です。



2005年度 VOC 放出量内訳

2005年度の生産事業所における、VOC(揮発性有機化合物)大気放出量の内訳です。ほとんどの割合を占める日本を、放出量削減の重点対策国としています。

環境方針に掲げた「測定なくしてコントロールなし」を実践するべく、あらゆる環境側面のデータをきめ細かに収集し、環境課題の抽出と改善を進めます。